

e オーディオロジー診療環境を最適化する 10 個のステップ (診療のセットアップ、ビデオ通話のチケットとポディー ランゲージ)

No.2 著者: Danielle Glista 博士

e オーディオロジーの診療に最適な部屋を設計する際には、機能性、実用性、人的要因を考慮してください。以下に、明確でオープンかつ思いやりのあるコミュニケーションを促進させるよう e オーディオロジー診療環境を最適化する際に、考慮すべき 10 個のステップを記載します。

10 個のステップ

ステップ 1 - 誰に?

サービスを提供する患者層について考慮します。視力、来院可能か、難聴のさまざまな程度により、セットアップのニーズと使用する多様なコミュニケーション方法に影響が生じる可能性があります。

ステップ 2 - 何を?

部屋と機器のニーズをより効果的に計画するために、提供する e オーディオロジー サービスの種類について考慮します。どのようなコミュニケーション方法を使用するか、また診察に参加する医療実践者の人数について考慮します。

ステップ 3 - 聴覚

騒音がなく、他の騒がしい診療空間から隔てられた、(ドアや効果のある仕切りなどで) 閉じることができる部屋を見つけます。部屋が静かなことで、騒音により気が散らされることが減少し、プライバシーが確保されます。

ステップ 4 - 視覚

部屋は、ビデオ通話のため明るい場所でなければなりません。適切な照明により、診察中に患者が通話相手が見にくいことによるストレスを軽減し快適性を増します。

ステップ 5 - 計画

入念に計画し、機器や家具を配置します。機器が簡単に手が届く距離にあり、適切に整理され、安定した場所に配置されていることを確認します。たとえば、ハンズフリー通話の利用や適切に配置されたビデオカメラ/マイクロホンにより、音声および画像のどちらの通信でも効果を最大化できます。

ステップ 6 - デザイン

ビデオ通話に移る背景やデスクの表面を含む診療空間には、気を散らすものがなく、表面からの反射がわずかであることを確認します。散乱している物を片づけ、色/装飾を適切に選び、反射を最低限に抑えるようにカメラを配置してください (窓ではなく壁に向けるなど)。

ステップ 7 - 服装

ビデオ通話を使用する場合は、適した服装を着用し、身なりが整っていることを念頭に置いてください。派手な柄や色でない中間色の服装を着用することを心掛けてください。

ステップ 8 - 位置

カメラを適切に設置することにより、診察者を間近に映すことができます (顔と肩を含めるようにします)。カメラを通じて視線を合わせ続けながら、ディスプレイ上に装用者が表示されるように最適な自身の位置を決めます。患者と医療提供者との関係を強化させることができる姿勢や他のきっかけを検討します。音声ベースの診察を行う場合は、会話の途切れは全て沈黙として聞こえることを考慮してください。患者に、会話の途切れは考えるためであることを知らせ、診察を行っていることを伝えてください。

ステップ 9 - トライアル

トライアルを行い、セットアップ、機器、マナーをテストします。同僚に、e オージオロジーによる模擬診察の患者側となるよう頼み、明瞭なことばを使用しているかを含め、環境を最適化できているかどうかフィードバックや提案をもらうことを検討してください。

ステップ 10 - 確認

各診察の開始時に、快適に映像が見え、音が聞こえるかどうかを装用者に尋ねます。定期的に、かつ各診察前に機器をチェックします。

準備は整いましたでしょうか?

開業したばかりであれば、保管室、クローゼット、未使用の診療スペースを再利用することを検討してください。理想的な e オージオロジーの環境を見つけたら、ステップ 1 から開始してください。

著者



Danielle Glista 博士は、カナダ、オンタリオ州ロンドンにあるウェスタン大学国立聴覚センターの上級研究員および非常勤教授です。Glista 博士の研究対象は、補聴器フィッティング、検証戦略、先端補聴器技術、難聴を患う小児と成人を対象とした装用後成果の測定などです。Glista 博士の最近の研究活動では、補聴器のリモートフィッティング技術を含むリモート聴覚サービスの臨床的導入に影響を与える要因に焦点を当てています。